



第3回 グローバルキャンパス

～世界の難民の現状について知り、考えよう!～

2019年10月19日(土)

JICA北陸 武田さやか



今日のプログラム

① 13:30～14:50

まずは世界の難民の状況について知り考えよう！

② 15:00～16:20

AAR Japan難民を助ける会

アフリカのザンビアで難民支援を行った栗村様
(石川県出身)よりお話

③ 16:30～17:30

青年海外協力隊についての概要説明

協力隊経験者による体験談（ラオス：環境教育）



今日の学びのねらい

- ◆ 世界の難民・日本の対応について現状を知り理解する。
- ◆ その上で自分はその様にこの問題を捉え、行動していくか、自分の考えを整理する。

自分ごと、として考えられるように



難民とは？：難民の定義

<難民とは>

1951年の「難民の地位に関する条約」第1条では、難民を「人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にしていると迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた」人々と定義しています。

1) 1951年 『難民の地位に関する条約』

2) 1967年 『難民の地位に関する議定書』

(条約にあった地理的・時間的制約を取り除いた)

➡ 2つを合わせて 『難民条約』 という



国内避難民とは？：国内避難民の定義

＜国内避難民とは＞

同様の理由で住み慣れた家を追われたが、国境は越えずに国内にとどまっているかあるいは避難生活を送っている人々のこと。

＜庇護申請者とは＞

自身の故郷から逃れて、他の国の避難所にたどり着き、その国で庇護申請をおこなう人々のことをいいます。庇護されると、難民認定や法的保護、援助物資を受けることにつながります。



難民・国内避難民などの数は？

< クイズ >

世界で住処を追われた人たちの数はどれくらい？

- ① 4,000万人 ② 5,000万人
③ 6,000万人 ④ 7,000万人

答え：2018年 紛争や迫害によって移動を強いられた人 7080万人

難民・国内避難民などの数は？

< クイズ >

世界で住処を追われた人たちの数は、年々

① 増えていっている

② 減っていっている

出典：国連UNHCR協会 数字で見る難民情勢（2018年）

https://www.unhcr.org/jp/global_trends_2018

**世界の難民について
動画を通して
現状を知ろう！**

**誰も難民や国内避難民になりたくて
なった訳ではないのです**

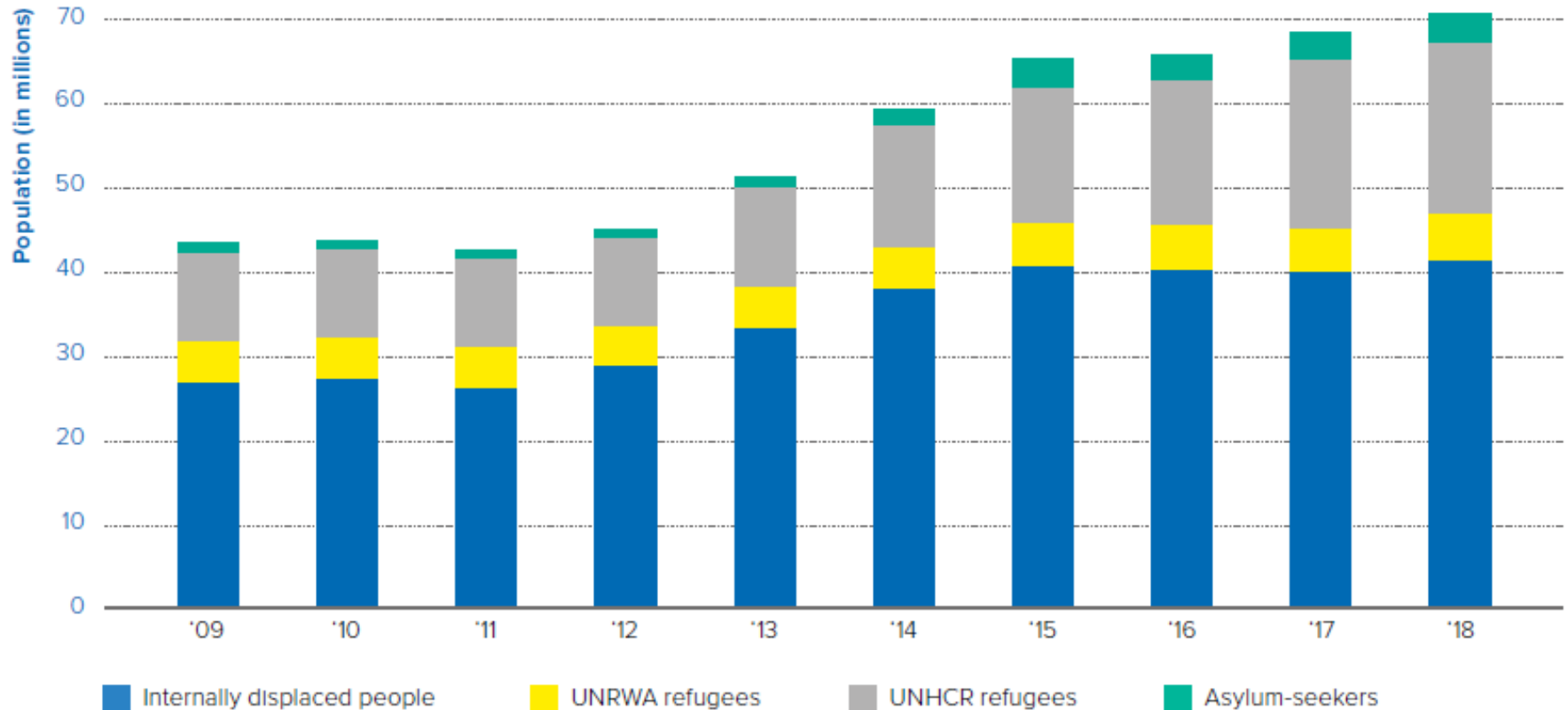


難民・国内避難民の増加

移動を強いられた人は過去最多の**7,080万人**

世界では108人に1人、2秒に1人が故郷を追われています

Figure 1 | Global forced displacement | 2009-2018



難民・国内避難民の増加

紛争や迫害によって移動を強いられた人：過去最多**7,080万人**

- ✓ 難民が2,590万人
- ✓ 国内避難民が4,130万人
- ✓ 庇護申請者が350万人

2018年に新たに移動を強いられた人：**1,360万人**

- ✓ 国内避難民が1,080万人
- ✓ 難民と庇護申請者が280万人

18歳未満の子どもは**2人に1人**

難民のうち18歳未満の子どもの割合は5割。2009年は41%で増加を続け、この数年は同じ。11万1000人が保護者を伴わない、避難の途中ではぐれており、2万7600人は個人で庇護を申請している。

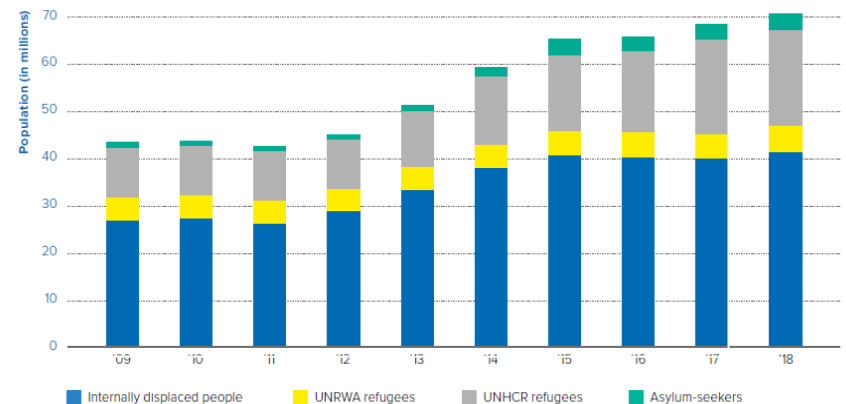
発生場所：難民の人たちはどこから？

< 難民発生国 >

全体の3分の2以上、難民の67%が、以下5カ国に集中

シリア（670万人）
アフガニスタン（270万人）
南スーダン（230万人）
ミャンマー（110万人）
ソマリア（90万人）

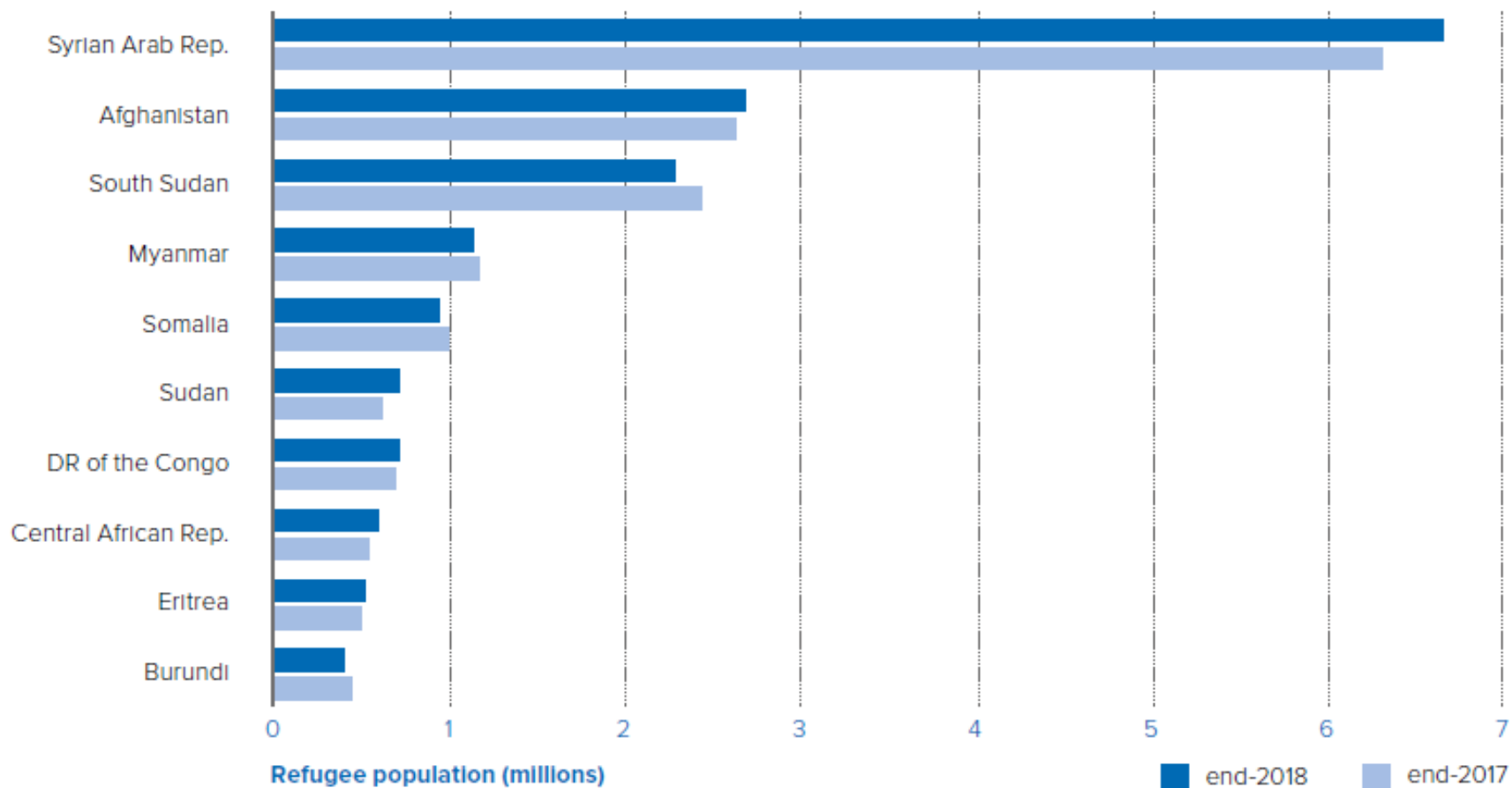
Figure 1 | Global forced displacement | 2009-2018



主な難民発生国

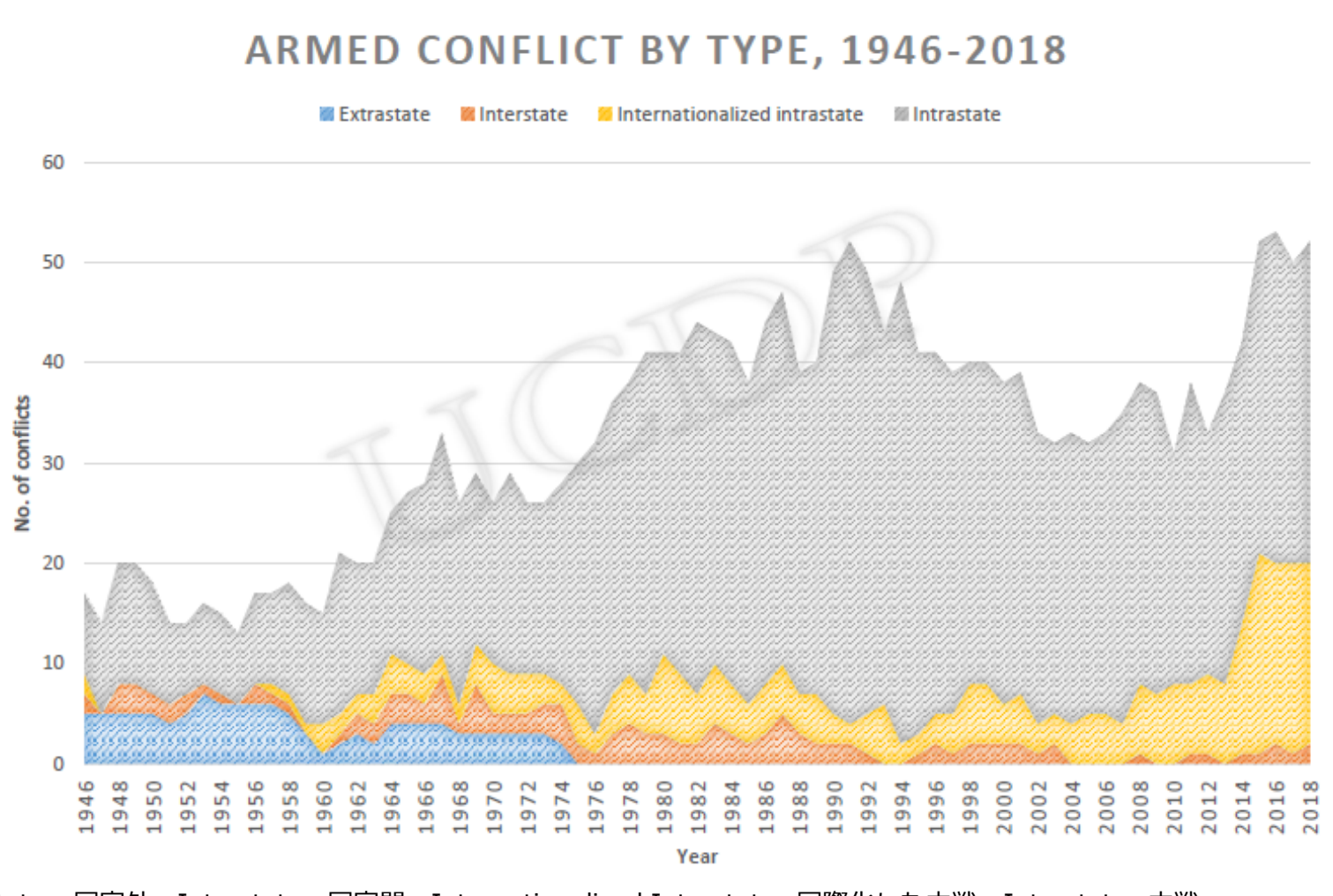
難民発生地の67%が5カ国に集中

Figure 5 | Major source countries of refugees | end-2017 to end-2018



なぜ難民や国内避難民が増えているのか？

紛争は2000年代初めから増加傾向



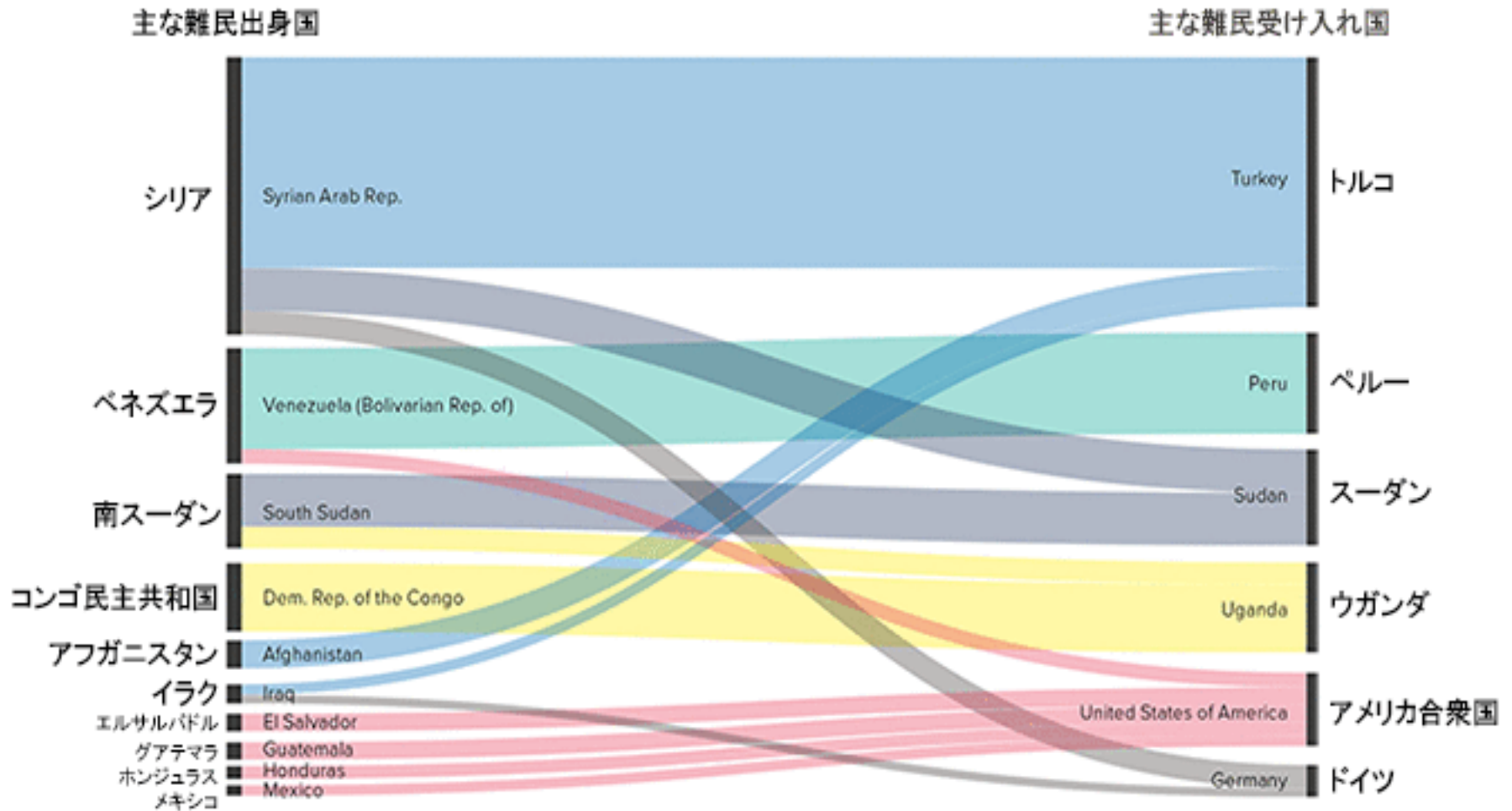
用語： Extrastate = 国家外、 Interstate = 国家間、 Internationalized Intrastate = 国際化した内戦、 Intrastate = 内戦

UCDP / UPPSALA (2019)

http://www.pcr.uu.se/digitalAssets/667/c_667494-l_1-k_armed-conflict-by-conflict-type--1946-2018.pdf

© UCDP 2019

2018年、新たに難民となった人々はどこへ逃れたのか？



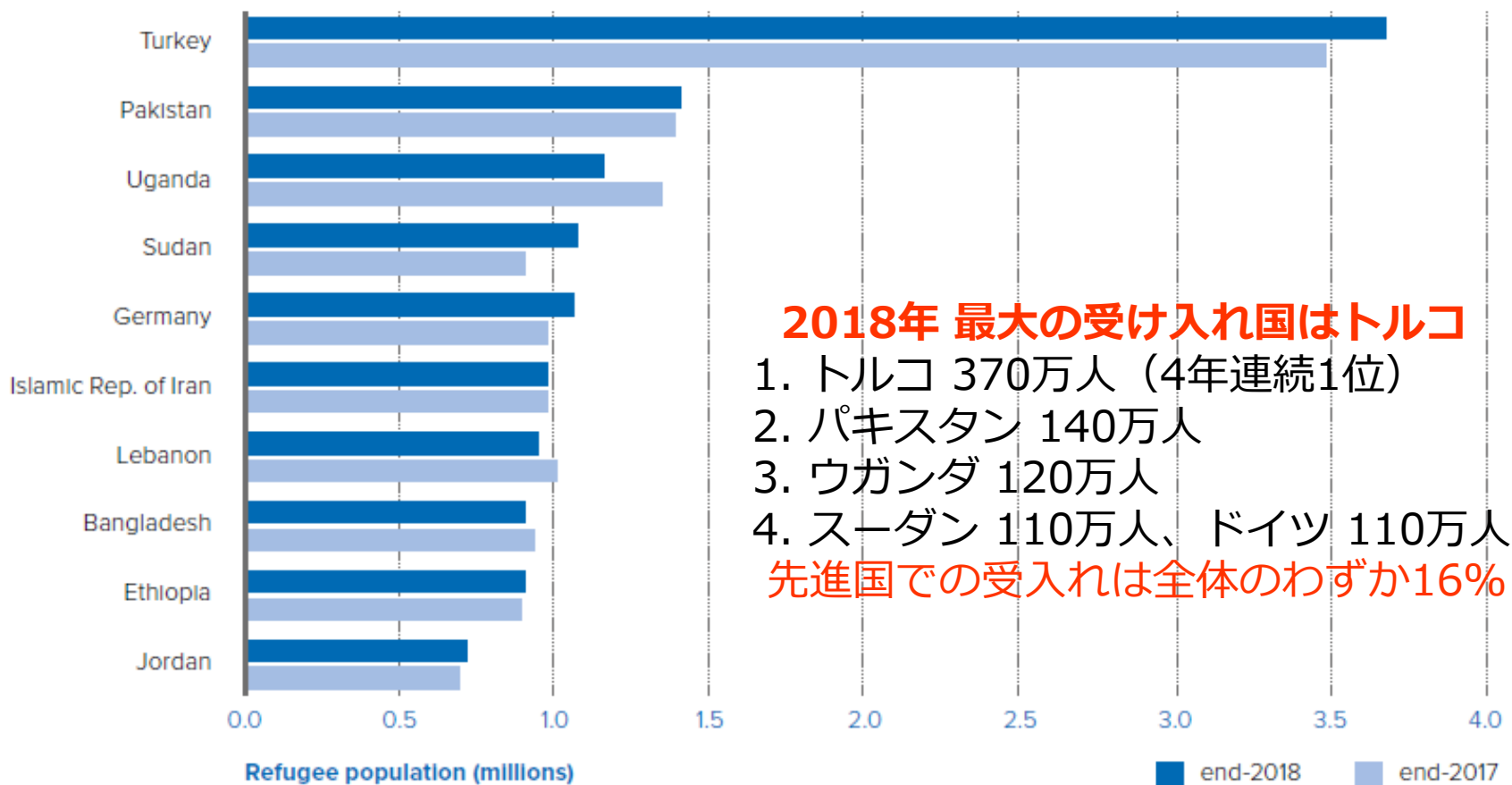
出典：国連UNHCR協会

<https://www.japanforunhcr.org/archives/globaltrends2018>

主な難民受け入れ国

難民の84%は途上国で受け入れ

Figure 6 | Major host countries of refugees | end-2017 to end-2018



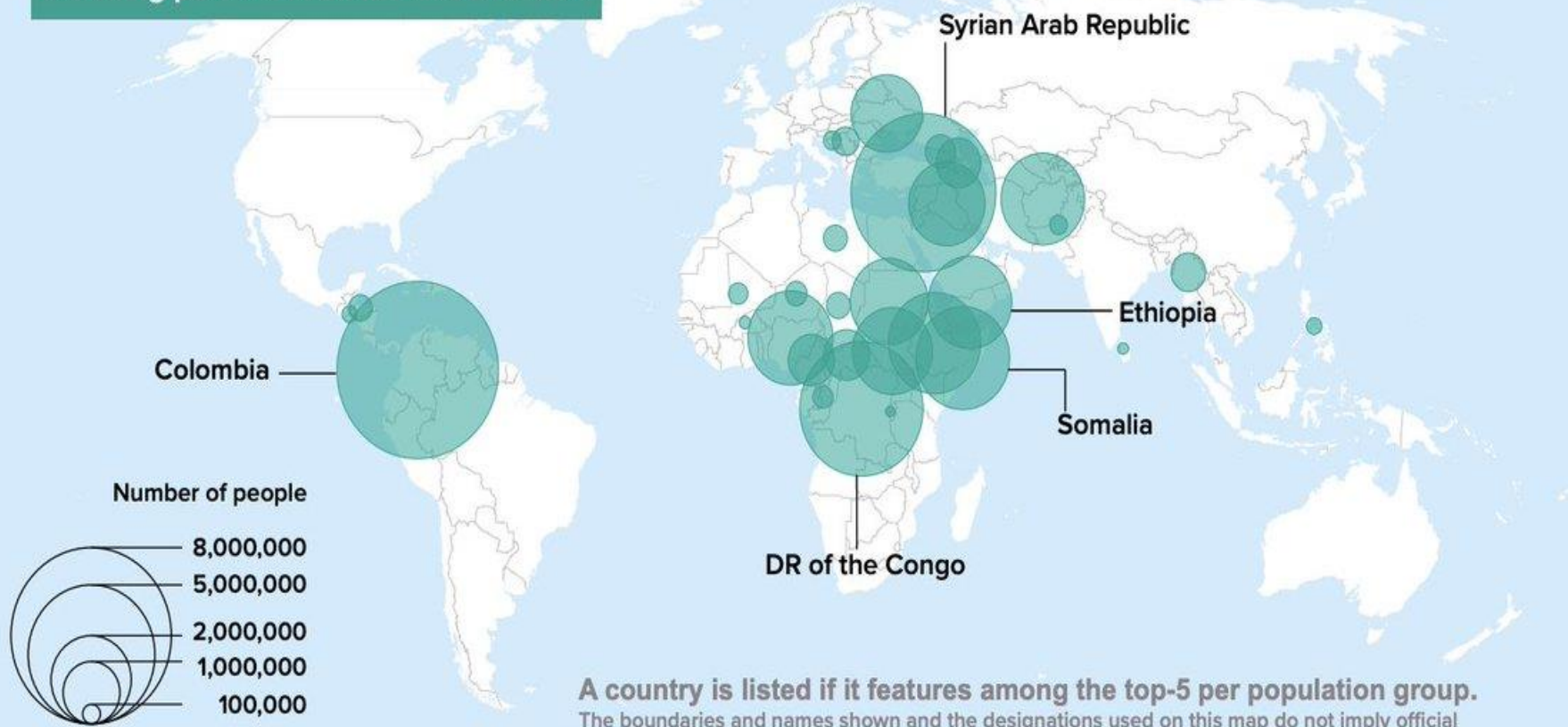
難民の人たちはどこに？：移動先の国

Refugees, including persons
in a refugee-like situation



国内避難民：滞在場所

IDPs protected/assisted by UNHCR, including persons in an IDP-like situation

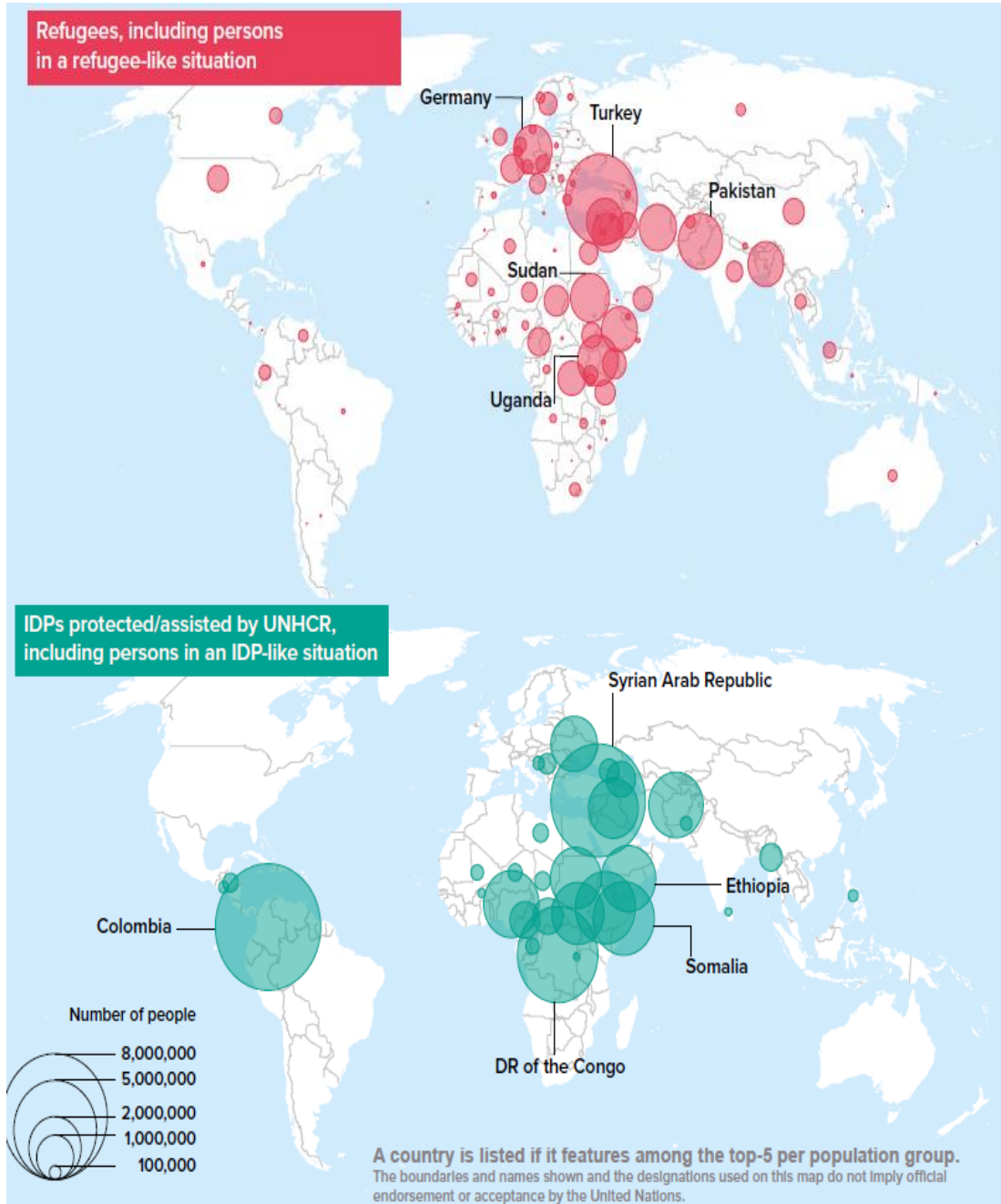


A country is listed if it features among the top-5 per population group.
The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

難民よりも国内避難民の方が規模として大きい

難民

2,590万人



国内避難民

4,130万人

開発途上国でも経済の発展度合いには大きなレンジが存在する

貧困国

- 紛争
- 飢饉

低所得国

中所得国

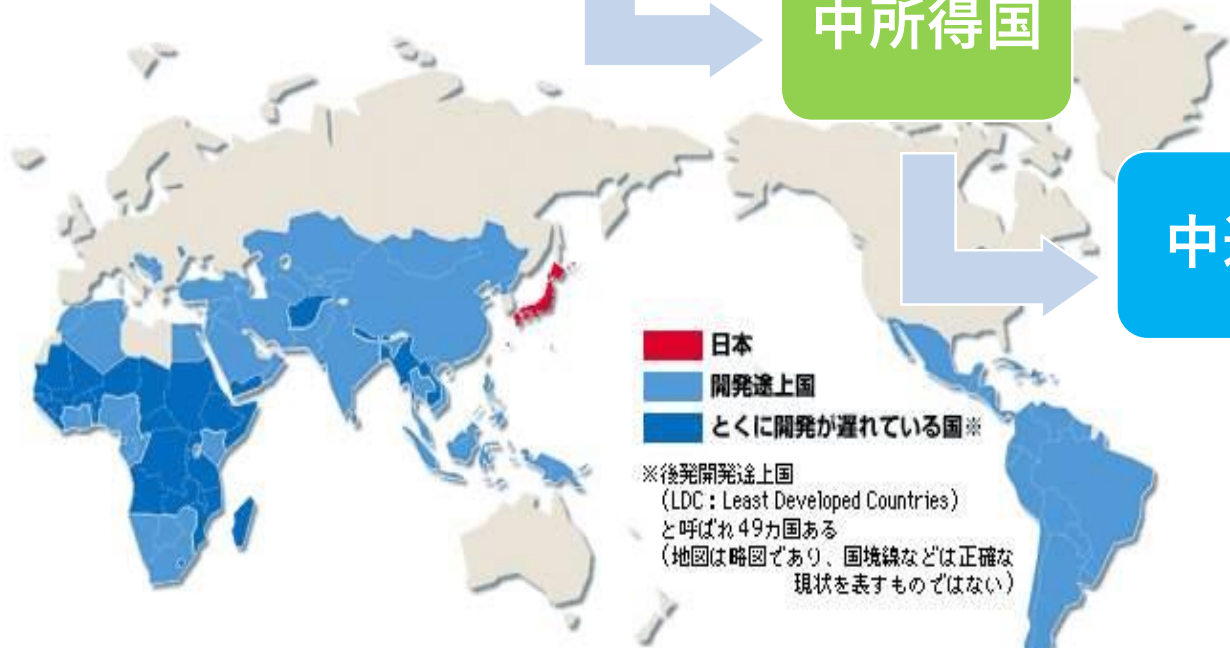
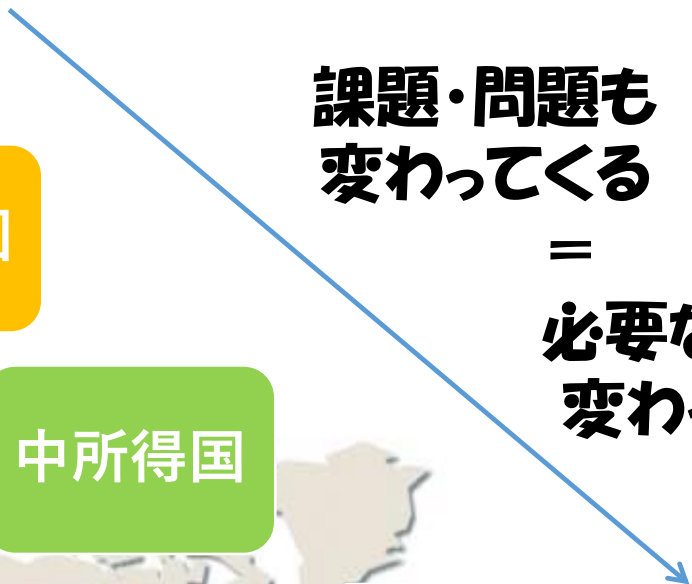
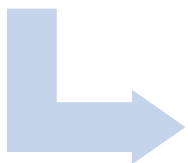
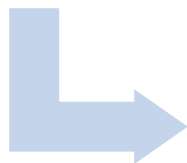
中進国

- 環境汚染
- 格差

課題・問題も
変わってくる

=

必要な支援も
変わってくる



■ 日本
■ 開発途上国
■ とくに開発が遅れている国※

※後発開発途上国
(LDC: Least Developed Countries)
と呼ばれ49カ国ある
(地図は略図であり、国境線などは正確な
現状を表すものではない)

現状は？

アフリカにおける難民・国内避難民

Refugees, including persons in a refugee-like situation

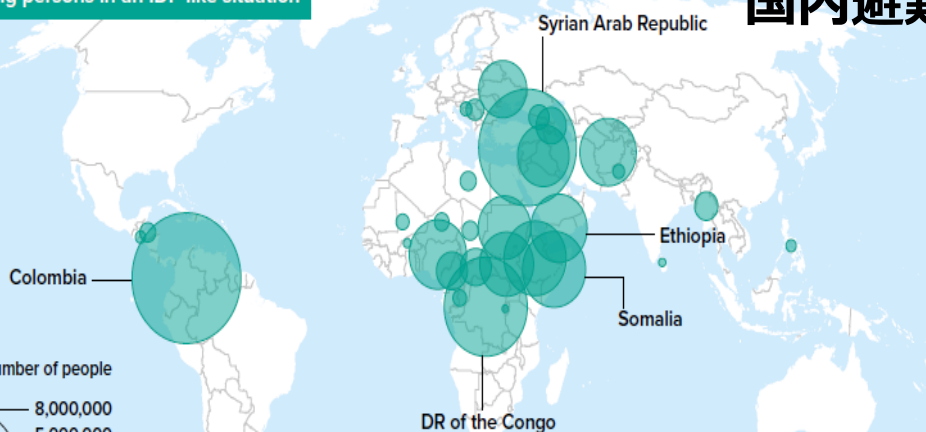
難民



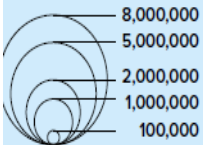
世界の難民の**約30%**が
アフリカに存在

IDPs protected/assisted by UNHCR, including persons in an IDP-like situation

国内避難民



Number of people



A country is listed if it features among the top-5 per population group. The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations.

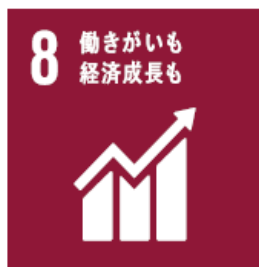
世界の国内避難民の
約43%がアフリカに存在

難民の問題はSDGs(持続可能な開発目標)にも 大に関わっています

世界が
こうなったら



いいね!
を表現



将来のために：発生予防から考える

難民・国内避難民が発生しないことが、本来は望ましい。

難民・国内避難民が発生するのは背景・理由がある。

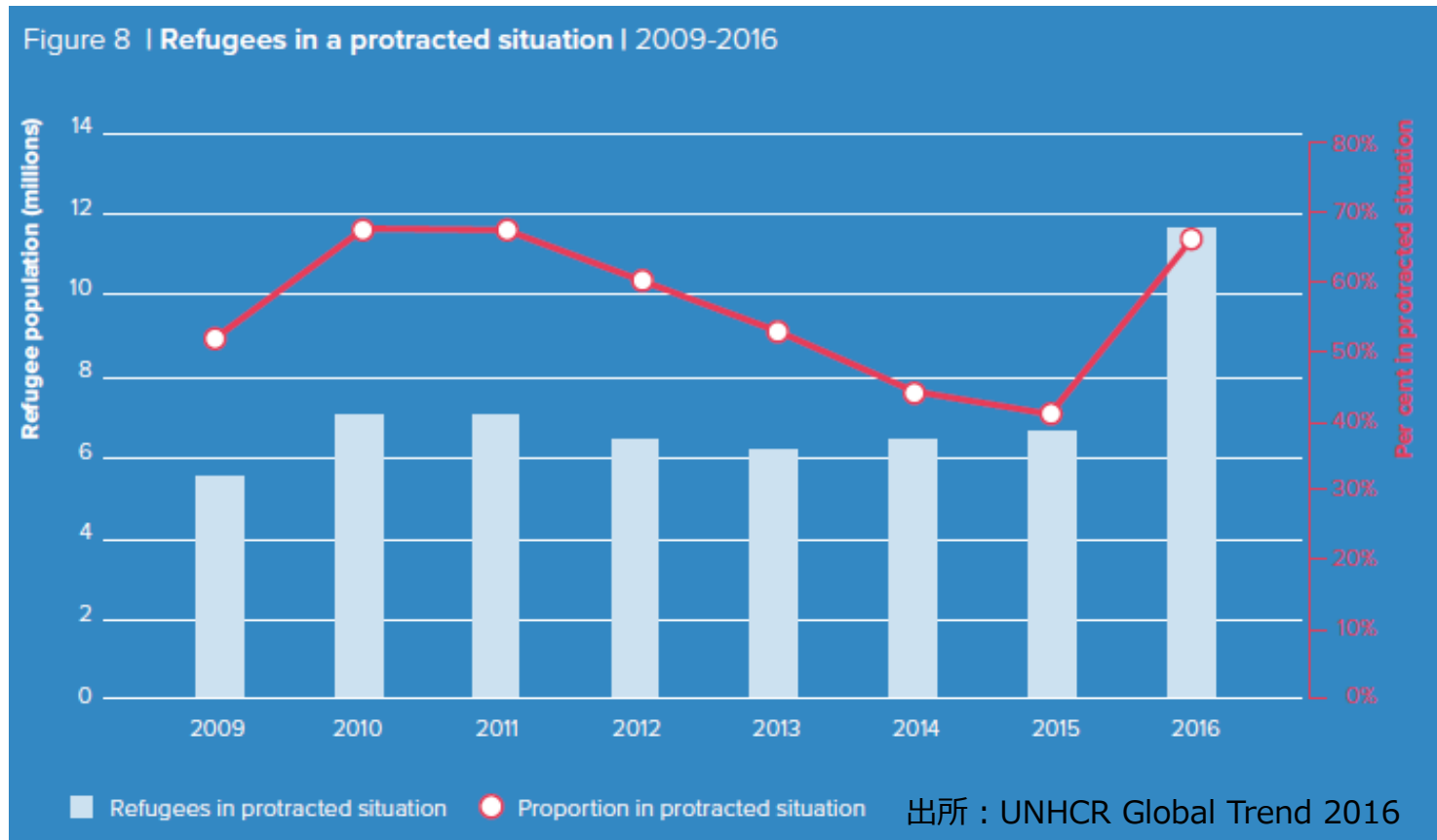
それが強い感情を伴い大規模に引き起されると、人道的な危機が発生し、難民も発生する。

難民という事態だけに対処するのではなく、難民を発生させないために、元となる原因にも対処。

→ 難民が発生する背景について考えてみよう！！



難民問題の今日の特徴



◆ **長期化難民** (> 5年) : 70% (1200万人/2016) ⇒
78% (1600万人/2018)

◆ **非セトルメント型居住** : 約60% (2018)

難民・国内避難民になることは 長い苦難のプロセスを歩むこと

どんな苦難、しんどさがあるだろうか？
考えてみよう！

短期的：難民キャンプへ辿り着くまで

長期的：どこかの地域にしばらく住むことに
した時

例えば、物理的な困難、生活面での困難、精神的なストレス
心理的なしんどさ



難民・国内避難民が発生した国の状況は様々

未だ戦闘中

- 帰還することが困難
- 難民や国内避難民の更なる発生
- 国の基盤の破壊

状況が沈静化

復興から国づくりへ

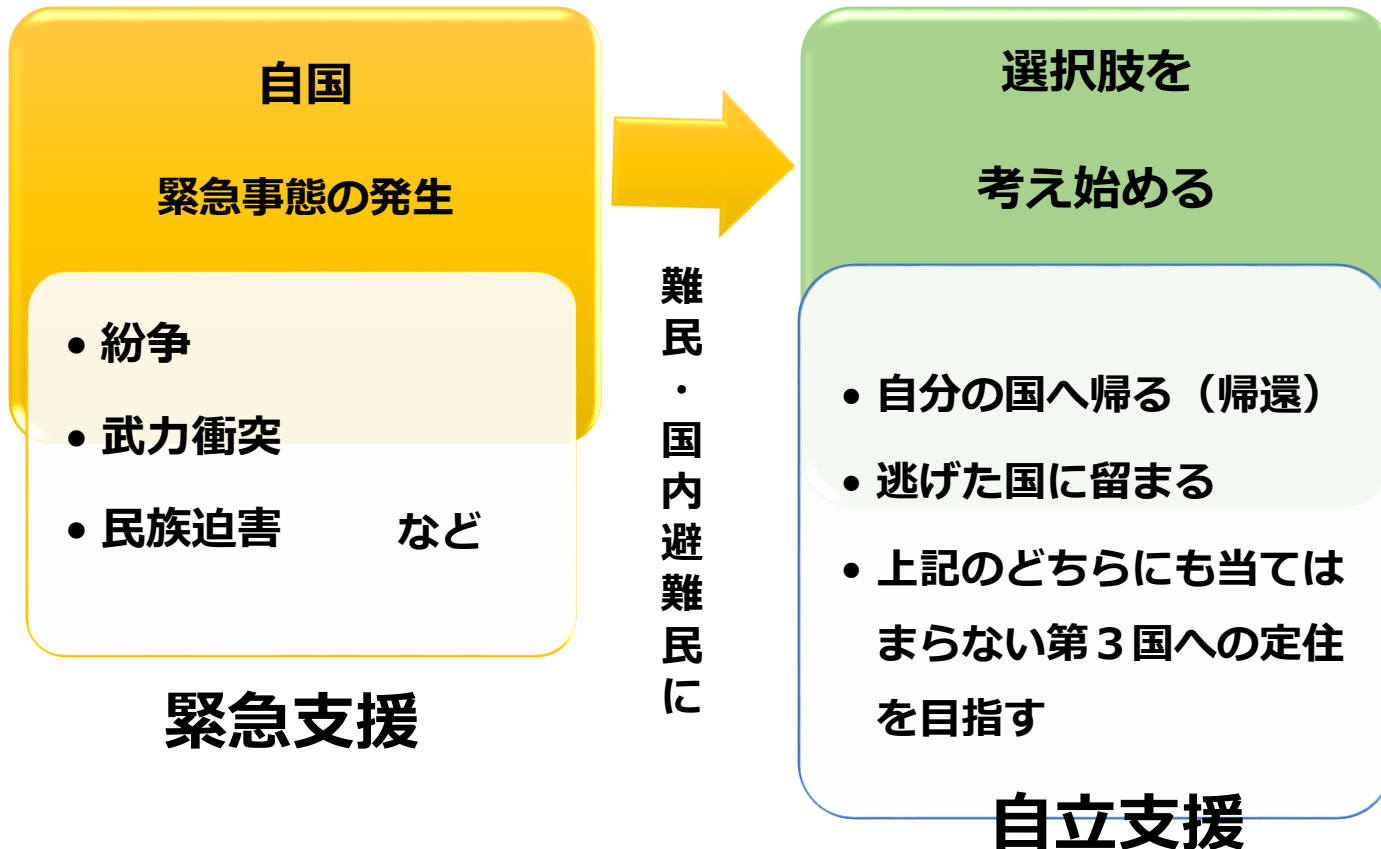
国際社会からの
支援も
変わってくる

- 帰還の開始
- 復興プロセスの開始

現状は？



難民・国内避難民になることは 長い苦難のプロセスを歩むこと



国際社会からの支援：まだまだ足りていない

物的支援

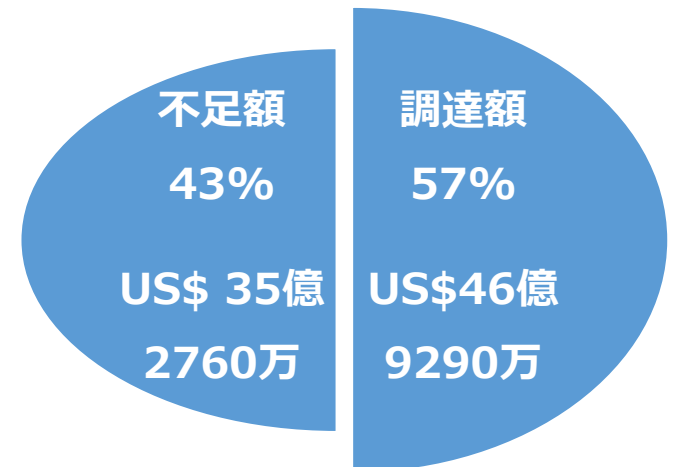
水
食べ物
テント
毛布
水汲み容器
蚊帳
ビニールシート
バケツ
ソーラーランタン
調理器具セット
就寝用マット

その場所で 暮らしていく支援

医療の提供
学校の解説
職業訓練
話合いの場設定
定住支援
インフラの整備
レクリエーション
の提供
など

2018年
UNCHRが活動に必要な
とした金額

US\$ 82億2050万



出典：国連UNHCR協会

今国際社会に求められていること

「難民に関するグローバル・コンパクト」 (Global Compact on Refugees)

- 難民受け入れ国の負担軽減
- 難民の自立促進
- 第三国定住の促進
- 安全かつ尊厳ある
帰還に向けた環境整備



JICAに期待される役割



難民・受入地域住民の生計向上



難民受入地域自治体の行政能力向上



難民受入地域のインフラ整備



今後の課題：難民問題の開発課題化を通じた **人道・開発・平和連携**の強化

- **受入地域開発**を通じた受入負担軽減
(インフラ、社会サービス)
- 「**消費主体**」としての難民 (金融、農業)
- 「**生産主体**」としての難民 (農業、小規模企業)
- 「**人的資本**」としての難民 (教育、技術訓練)
- 難民排出国における**平和構築**

難民の人たちのその後は？

＜帰還者＞ 290万人

2018年に国内外から帰還した難民は約290万人
難民：約60万人 国内避難民：約230万人

＜庇護申請者＞ 350万人

2018年末時点で350万人が庇護申請中

＜新たな庇護申請＞ 170万人

新たな庇護申請170万人のうち、アメリカが25万4300人で第1位、ペルーが19万2500人、ドイツが16万1900人、フランスが11万4500人、トルコが8万3800人と続く

＜第三国定住＞ 9万2400人

各国政府の統計によると、2018年に第三国定住を許可されたのは9万2400人

イラクの場合

2017年7月、モスル解放宣言

市民の帰還が始まり、UNHCRなどの支援帰還は生活に不可欠な援助物資や緊急シェルターキットなどを配布。
壊されてしまった人々の家の修復も支援を開始した。

- ◆ **避難先から帰還した人** 約421万2千人
- ◆ **イラク国内で避難する人** 約174万5千人
- ◆ **シリア難民** 約25万4千人

難民を受け入れるとは：国際社会の反応

受け入れを大多数行っている国もあれば、
ほとんど受け入れない国も

積極的に受け入れている国があっても
拒否反応を示す地元の人々もいる
ドイツの例を動画で見よう

受け入れが反発を呼ぶ理由を考えてみよう



難民を受け入れるとは：日本の状況

難民認定申請及び認定者数の推移

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	合計
申請数	1202	1867	2545	3260	5000	7586	10901	19629	51990
認定	39	21	18	6	11	27	28	20	170
人道配慮による在留	363	248	112	151	110	79	97	45	1205

2018.3.31 出典：法務省資料



難民を受け入れるとは：日本の状況

Q1. 皆さんは日本のこの状況をどう思いますか？
もっと積極的に受け入れるべきでしょうか？

Q2. もし石川県で1,000人難民を受け入れるとしたら、
皆さんは賛成ですか？反対ですか？
賛成の場合、どの様な共生方法があるでしょうか？



まとめ：自分の考えを整理してみよう

難民はととても大きな規模の問題であり、
すぐに、簡単に解決することは難しい

国境を越えて、国際的な問題へと既に発展しており、
ヨーロッパではそれが顕著になっている

実は日本へも沢山の人が助けを求めている

自分には何が出来るだろうか

